
理不尽

あっちゃん(^-^)

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

理不尽

【コード】

N7338H

【作者名】

あっちゃん(^ー^)

【あらすじ】

この世界で神の運命に逆らった者がいる

第1話（前書き）

い 一部グロテスクな部分が含まれます。読むときは気をつけてください

第1話

この世界の人間は他人を蹴落としてまでも自分の欲望を叶える。本当に最悪な生き物だ。だからこの世界は腐りかけている。全て人間のせいだ!!

ここに一人の青年がいる。名は「雨黒」彼はこの世界を変えるかもしれない

丁度午後の2時くらいであった

「佳奈・・・久しぶりだな・・・今日来たのはお前をこんな目に遭わせた奴に復讐するときがきたんだ・・・やっとだ・・・絶対復讐するからなお兄ちゃんを見てろよ!!」

そこにある「矢自澤佳奈」の墓場の前で語りかけていた

その夜

「こんにちは！みなさん元気だったかな？今日は佐宮高校の同窓会に来てくれてありがとう！」

「おおー久しぶりだな！」

「お前！懐かしいな！」

「あ！久しぶりね！」

「本当！何年ぶりかしら・・・」

みんなが同窓会で喜んでいる。

「佳奈はいないのよね・・・」

「気にしない方がいいよ・・・だってウチらが少しいじめただけで自殺するような奴よ！そんな心が小さいような奴は気にしなくて当然よ！」

「あいつは多分今頃地獄にいるわよ」

「オホホホホ！」

「何言っただか・・・あいつは相当戦つたのに・・・」

「でも、お前はそれを止めなかつたんだからお前も同類だよ・・・」

「何だと！」

「お前だつて止めなかつただろ！」

「だって俺はあんなの眼中になかつたし・・・」

「お前な！！！」

二人は喧嘩になつた。

「おい！やめろよ！」

「こんな時に！！！」

「死人の話なんかいいよ・・・」

「あいつは今天国にいるんだよ！」

「地獄よ！」

「うるせー佳奈は・・・まだ・・・」

「生きてるとでも」

「・・・」

その時だつた、コンポから

キューキュー

「・・・何だこの音は？」

「うるさい！！！」

「何コレ？」

「止めるよ！！！」

キーン

「う・・・うああああああ」

その男は自分の手首を切断した。

「何やってんの？」

「うわあああ！」

それを見たせいかみんなが同じことをしている。

「きゃ！痛い！」

そして39人の生徒は全て自分の手首を切った。

その同窓会場の中一人だけ無傷の奴がいた。

それは「雨黒」

「お前は……何故？」

「醜いな……お前らみんながいじめていたことを知っていたのに今頃になってそのことで揉める……バカバカしい。腐った愚民共には良い罰だ……」

「お……前……俺の……クラ……スにい……たか？」

「俺は佳奈の代理だ……」

「まさかお前……」

「お前も次は争うなよ……来世でな……」

「……ぐは！」

その男は死んだ

「これで39人死んだか……フハハハハ！」

雨黒は去っていった。

その数十分後、警察がきた。

「何だコレは……」

「これは恐らく精神崩壊です……みんな催眠術にかけられ死ぬように命令されたので死んだと思います。」

「しかし、催眠術をどうやっ……」

キーキキー

「まさかこのコンポが……」

「音声分析してみます!!」

翌日

「昨日、ホテル内の会場で同窓会中に39人が一斉に心中をしました。原因はその時に流れていた音楽によって催眠術をかけられたもようです。」

そのニュースをみて雨黒はつぶやいた。

「立つ鳥跡濁さず」

そして雨黒はまた復讐のシナリオを作っていた。

第2話（前書き）

こんにちは

今回は第2回目です。

「異世界」共々暖かくお願いします。

第2話

朝の登校中

「あーあ。やってらんねーよ!」

「コラ! 佐伯タバコ吸うんじゃないよ! まだ高校だろ!」「うるせーな俺の勝手だろ!」

「ダメなんだよ!」

「ち!」

男はタバコを投げ捨てた。

「ほら! ポイ捨てしてんじゃねーよ!」

「うるせー!」

男はカリカリしながら高校に行った。彼が通っている高校はそう

「佐宮高校」

「本当に胸くそわりーぜ! おい! その眼鏡!」

「……」

「おい! お前だよ!」

「え!? 僕?」

「そつだよ! お前だよ!」

「で…何?」

「お前金貸せよ!」

「今日は財布持ってないんだ…」

「はあ?」

男は立ち上がり少年のバックをあさった。

「あ! あんじゃねーかよ! 嘘ついてんじゃねーよ!」

「いや…だって…喝…上…げ…されるかど…」

「そつだよ! …ほらよ!」

男は財布を投げた。

「あ！・・・てお金入って無いじゃないか！！」
「知らねーよ！」
「返せ！」
「ウザい！」
少年は殴られた。
「俺に逆らうんじゃねーよ！！」
「ヒソヒソ・・・榎宮君・・・かわいそう・・・ヒソヒソ」
「うるせー文句あんだっいたら直接言えよ！！」
みんな黙り込んだ
「たく・・・どいつもこいつも・・・」

授業中

「あー暇だー何か無いかなー」
「うるさい！佐伯！」
「ち！本当に糞だなここは・・・あ！榎宮をちよっかいでもするか・・・」
男は消しゴムをちぎりまくった。
「おーい！榎宮！」
「何？・・・わ！」
ちぎった消しゴムを顔面に投げた。
「いたいな！何するんだよ！」
「へへへ！」
「・・・」
「おい！すねんなよ！」
「うるさいな！」
そして放課後
少年（榎宮）は一人で帰っていた。
「あーなんか佐伯ム力つくな・・・」
「お前奴に恨みがあるのか・・・」
「・・・誰だ!?!」

「俺は三崎、お前の手助けをしてやるよ。俺もあの高校には恨みがあるからな。」

「ふーん」

「とりあえず俺の話の話を聞くだけでもどうだ？」

「・・・・・・・・」

「まずお前はこの箱を奴の机の中に入れる！そうしたらお前はこの写真を先生に見せる！」

そう言っつてブランド物のタバコと男がタバコを吸っている決定的な写真がを渡した。

「これだけであいつを学校から追放できるやってみないか？」

「・・・分かった。やって見るよ・・・」

「頼むよ！樫宮君！」

「でも俺の本名は雨黒何だよね・・・」

翌日

少年（樫宮）は昨日言われたとおり机の中にタバコを仕込んだ。

「先生！これ見て下さい！」

「な！コレ佐伯じゃないか！」

「はいタバコを吸ってました。」

「コイツ！！分かった・・・ありがとう・・・」

「おい！！佐伯！！！」

先生は男（佐伯）に写真を見せた。

「お前吸ってるのか！？」

「はあ？何だよコレ知らねーよ」

「とぼけるんじゃない！！こっち来い！」

「はあ？」

そして3時間の説教を受けた。

「あゝゴルアム力つくな!!」

男（佐伯）は机の中を見た。

「おお！これは！早速吸いに行くぞ!!」

男（佐伯）はトイレに吸いに行った。

「プハーやっぱうまい！このタバコうめー」

そして男はタバコをいつも通り投げ捨てた。

その後授業を男（佐伯）は真面目に授業を受けていた。

「何なんだ・・・あの男二度佐伯を学校に来れなくするとか言っても起きないぞ・・・」

その時

ドガ！！バン！ガシャン！！ジャー

「何が起きた？」

「火事だ！！トイレから出火！」

「早く避難を!!」

その時黒い男の影が見えた。

「立つ鳥跡濁さず!!」

そう言って消えた

「こういう事だったんだ・・・あの男は・・・」

その後佐宮高校は燃え盛り生徒は全員なんとか助かったが校舎は使えなくなり廃校になった。

「あの佐伯さんですね・・・私は警視庁の渡部と言います。あなたのタバコの不始末が原因で出火したと想定されています。私達と来て下さい。」

「何なんだよ！おい！」

佐伯は逮捕された。

「あいつは・・・確かに学校から追放されたが・・・」

「次は・・・あいつだな・・・」

第2話（後書き）

コメントなどお願いします

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7338h/>

理不尽

2010年10月17日16時22分発行